

立待っ子を家庭・地域とともに

鯖江市立待小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	13回 (のべ13日)

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	41人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	20人
登下校支援ボランティア	110人
その他 ()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

文楽を通じての小学校との交流

本校では、3年前から大阪府和泉市いぶき野小学校などから子ども文楽クラブの児童を招いて交流会を実施している。今年度も市教委文化課、立待公民館などの協力を得て、交流会を行った。舞台の設営を地域で人形浄瑠璃の活動をしている「近松座」の方が全面的に行っていたり、文楽クラブの児童や引率の方の昼食を公民館の方が準備していただいたり、地域全体の協力体制が出来上がってきている。

交流会は、8月の全校登校日に行なった。全校児童が体育館に集まり、子ども文楽クラブの演じる謡の迫力や三味線の音色に耳を傾け、息の合った人形の動きを食い入るように見つめていた。本校からは、吹奏楽の演奏や全校合唱の発表を行い、最後は全員で「マルマルモリモリ」を歌い楽しい交流となった。

今年は、学校に新設した和楽器クラブが三味線で「サクラサクラ」の演奏も行いさらに交流を深めた。この和楽器クラブは、近松の人形浄瑠璃に欠かせない三味線に親しもうと、クラブの時間に、「近松座」のメンバーの方に来ていただき練習を行っている。

また、今回は保護者だけでなく、地域・学校協議会の委員の方々や地域の方々にも案内をしたところ、昨年より多くの方に来ていただき、こうした交流を家庭や地域に公開することができた。

本校では、4年生が「歩いて学ぶ近松の里めぐり」として、5月に西光寺表門、蓮池、榎お清水など近松門左衛門ゆかりの名所約2.5キロを巡り、地域ボランティアの方から地元の歴史を学んでいる。人形浄瑠璃展示収納庫では実際に浄瑠璃人形の手を動かすなどの体験を行っていることも、地域の歴史に関心をもつきっかけとなっている。



成果と課題

本年度も地域学習を重点項目に位置づけ、市教委や公民館・各種団体と連携して地域を学ぶ学習を進めてきた。4年生の近松の里めぐりや和泉市いぶき野小学校との交流会さらに和楽器クラブの新設などを通し、近松の里としての歴史や人形浄瑠璃に関心をもつ児童が増えている。地域の多くのボランティアの方々にもふれあうことで、感謝の心や郷土を愛する心の育成にも繋がった。

今後のより充実した活動のために、目的を地域と共有化して継続を図ることが課題である。